

赤谷プロジェクト 近況報告

レッツ！サマースクールでの森林環境教育

地元新治小学校では小学5年生を対象に、高原千葉村林間キャンプで「レッツ！サマースクール（キャンプ活動）」を実施することになり、赤谷プロジェクト地域協議会、赤谷センターが新治小学校と連携して、7月22日（水）に森林環境教育を実施しました。

最初に、赤谷センターから赤谷プロジェクトを紹介し、赤谷プロジェクト地域協議会からフィールドマネーの説明を行いました。その後、先生の引率のもと児童を6班に分け、①



植物の利用方法を説明する職員



観察メガネで日食を体験

②森林のしくみ、③森林の利用、④分解者としてのキノコの働き、⑤森に生きる動物、⑥アリジゴクの5テーマの箇所を各班が順番に巡っていきましました。

各テーマの解説箇所では、赤谷センターや赤谷プロジェクト地域協議会がそれぞれ担当したテーマについて、絵や道具を用いてわかりやすく解説しました。最後には、歩きながら児童たちが拾った木の実を使い何の実かを当てるクイズをしました。当日は、日食が観測され、プログラムの合間に観察メガネを使って、天体ショーも楽しむことが出来ました。

「レッツ！サマースクール」への協力は今回が初めての取り組みでしたが、学校側からも今後も協力をお

願いしたい旨要望があり、これからも地域の教育関係者との連携した環境教育を推進していきます。

「ムタコの日」住民参加の森づくり

8月2日（日）、赤谷プロジェクト地域協議会が主催する「ムタコの日」が開催されました。前号でも紹介しましたが、「ムタコの日」とは、「赤谷の森」の無多子（ムタコ）沢にちなみだもので、地域住民に自らに住んでいる周囲の森林の大切さや水源かん養機能等について、様々な普及、啓発活動に取り組んでおり、今年で3年目になります。当日は、地元小学生が中心に多数の親子連れが参加しました。

今回は、ムタコ沢のカラマツ林で混み合った木の伐倒作業を行いました。

作業の目的は、木を間引いて光を林内に行き渡らせることにより、植生を豊かにし、森林の水源かん養機能を高め、様々な動植物が生きやすい



受け口に狙いを定め伐倒



丸太切りにも挑戦

ける良い環境を森林にもたらすことなどを赤谷センターから説明した後、作業を開始しました。

このとき、単に伐ってもらうだけではなく、枝払いや長さ2mの丸太切りにも挑戦してもらいました。

普段は刃物を使ったことがない子供が多かったようで、木が倒れるたびに大きな歓声が上がりました。

休憩時間には、赤谷プロジェクト地域協議会から、林内にあるアナグマなどの穴を教材にした森林に棲む動物の生態についても説明しました。

今後も「ムタコの日」の活動などを通じて、次の世代を担う子供たちに身の回りの森林について、関心を持ってもらうよう様々な取り組みを進めていきます。